

## 会員の広場



### 長嶋茂雄さんとの20分

伊東 憲一郎（東京）

長嶋茂雄さんとのあの出会いは偶然のことでした。長嶋さんが現役・第1次巨人軍監督、通算22年のキャリアを終えた翌年のこと、1981年と記憶しています。

これまでの慰労を兼ねて、ご家族でヨーロッパ旅行を楽しんでおられるところでした。

場所はマドリード空港の出発ラウンジ。長嶋さん一家はこれからウイーンへ行くとのこと。私はスペイン出張からロンドン経由で帰国するところでした。当時、日本人のヨーロッパ旅行客は著増してきてはいたものの、ロンドン・パリ・ローマがメイン。マドリードはまだマイナーで、ラウンジでの日本人の姿は見受けられませんでした。

スーパースターの長嶋さんを私は一目で認識できましたが、長嶋さんも日本人である私を見て親しみを込めて会釈をしてくれました。そのまま通り過ぎようかと思いましたが、同僚に熱狂的な阪神ファンで巨人嫌い、ただし長嶋さんの絶対的なファンのA君がいて、なぜ絶好のチャンスを見逃したかと非難されること必定、意を決して話しかけることとしました。さて、何から話をしようかと、共通話題

を探りました。

「山本功児さんのご近所に住んでいるものです。山本さんの娘さんが私の娘と同学年で、山本さんがホームランを打ったたびに景品の明治チョコレートを娘にいただき喜んでいます」

山本功児さんは第1次監督の下、準レギュラーとして主に5番打者で活躍していた長距離砲。1塁手・外野手として活躍、背番号は44番。

「ああ山本浩二ね。彼にはチャンスによく打たれて痛い目にあったよ」

広島山本浩二と混同している。

「私の勤務先はS信託銀行なのですが、山本浩二さんの奥様のH・Sさんは私と同期で入社時の配属も同じ支店でした」

「S銀行ね、田園調布支店でご厄介になっ

ています」

信託銀行と銀行を取り違えている（この点は知名度からやむをえない）。その後、次の目的地のウイーンの話などで盛り上がり出発便との関連で20分程度の会話であったが、忘れえぬものとなった。

証拠資料としてA君用にサインももらい、別れ際に「是非近いうちにグラランドに戻ってきてほしい」と私は要請。その後、長嶋さんは1992年に第2次監督としてカムバックされドラフトで松井秀喜を引き当て、有数のメジャーリーガーに育ててくれ、約束を果たしてくれたと思っています。その後、H・Sさんは山本浩二さんを公私とも賢夫人として支え、A君はサインを家宝として大切に保管してくれている。最後に。私は赤バットの川上時代からの巨人の大ファンなのです。